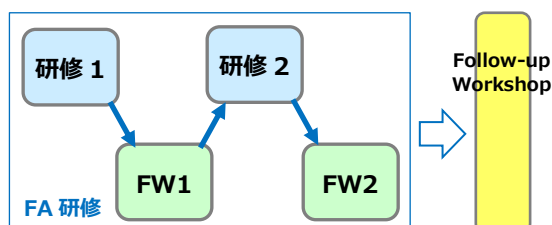


プロジェクトの遠隔運営を考える＜その4＞

計画段階から予定されていた遠隔運営

今回はパキスタン国 KP (Khyber Pakhtunkhwa) 州の事例を取り上げて、計画段階から遠隔でのプロジェクト運営を行った事例を紹介する。このプロジェクトは、パキスタン北西部の山岳地帯に位置する KP 州の農業普及員 (FA; Field Assistant) の研修によって、普及員の能力向上を図り、農民への適切な技術や知識を普及させることをめざしている。しかし、KP 州はアフガニスタンと国境を接しており、アフガン紛争勃発以降、深刻な治安問題に直面し、外国人の立ち入りは厳しく制限されていた。

本プロジェクトの特徴は、下図のように研修に実地活動 (FW; Field Work) を組み込むことにより、普及員が研修で得た知識・技術を現場でどのように生かしていくかを、実践を通して学ぶという仕組みにある。



まず「研修 1」では農業技術や農業普及に関して基礎的な事柄について学び、「FW1」では現場農家の実態や抱えている問題点を明確にするための農家調査を実施する。続いて「研修 2」では、「FW1」で明らかになった農家の課題解決に資するような技術や知識を学び、それらを農家に伝えるべく普及活動として「FW2」を実施する。最後に「Follow-Up W/S」で全体の振り返りを行って、その後の活動に活かしていく。

このように研修と普及活動を連携させた研修フローの中で、普及員には研修成果を発揮する「場」や「機会」が与られ、そうした活動を通して普及員は自信を深め、農家との関係性の改善に努めることができた。また、普及員が効果的な普及活動を実施するためのツールとしての様々な普

及教材（ポスター、パンフレット、テキスト、ビデオ）についても、研修活動の一部として普及員による作成プロセスを大切にした。

上記活動の内、研修活動は日本人専門家のいる首都イスラマバードで実施されたが、KP 州への立ち入りは治安上の理由から制約が大きかったため、州内における普及員の実践活動は遠隔操作によって管理・運営されることがプロジェクトの計画段階から予定されていた。この際、M&E (Monitoring & Evaluation) Officer と呼ばれる、普及員の活動をモニタリングする役割を持つスタッフの働きが不可欠であった。

M&E Officer は、現地への立ち入りができない日本人専門家の目となり耳となって、普及員の活動をモニタリングして、レポートとして報告する。こうした遠隔のモニタリングでは、この M&E Officer の存在と活用がきわめて重要であった。より良いモニタリングを実施するために工夫したことは、モニタリング・レポートの書式を整えて報告すべき事柄が的確に書き込めるようにしたことに加えて、M&E の人選には格別注意を払って行った。そこで特に重視したのは、過去にモニタリング業務の経験があるかどうかより、フィールド作業をいとわないフットワークの軽さや、普及員とうまくやっていけそうな人柄の良さを重視して、面接によって選考した。

M&E は現場からの情報を得る上で必要不可欠のものであるが、逆に M&E の「フィルター」を通った情報しか得られないという側面もある。百聞は一見に如かず。現場で得られる情報の質と量をどう改善していくかは今後の課題である。



自身が作成した普及教材を使って農家に病害防除の説明をする普及員